



# 学校だより

登校わくわく 学校いきいき 下校にここに

千葉市立千草台東小学校

No.4 (7月号)

令和8年7月15日



暑さに負けず、生き生きとぐんぐん伸びる夏の植物

## 子どもの成長 ～ぐんぐん伸びる「ひがしっ子」～

校長 山本 貴洋

夏休みに合わせるかのように、夏の日差しがまぶしく、じりじりと真夏の暑さを感じるようになりました。間もなく夏休みに入ります。夏休みは子どもの「特権」と言ってもよいかもしれません。中学校に進学すれば部活動や学習塾、高校や大学に進学すれば、部活やアルバイトに精が出るかもしれません。大人になれば、仕事仕事でまとまった休みはお盆と年末年始くらい。このように考えると、じっくりとそして自由に（家族と）家で過ごせる長い休みは、小学生のうちだけなのかもしれません。まさに小学生の特権と言えるでしょう。しかし、自由と言っても、子ども

は自分で行動して責任をとることができません。例えば、子どもがゲームで課金をしました。支払うのは子どもではなく、保護者になります。このように子どもの行動は保護者の監督責任が伴います。教育の原点は「家庭」にあります。今年の夏休みは、45日間です。時間に換算すると1,080時間。1日の $\frac{1}{3}$ を睡眠時間とすると、家庭で過ごす「おはよう」から「おやすみ」までの時間の合計は、720時間になります。長い長い夏休みです。保護者の皆様もお忙しいと思いますが、ぜひ、お子さんが家庭での時間を充実させられるようにしていただきたいと思います。そして今しかできないことや普段できないことへの挑戦や体験をして、有意義な夏休みになるよう、よろしくお願いします。

さて、学校では、夏休みを迎えるにあたり、子どもたちが取り組んできたことを振り返ります。そして自分の成長を見つめ、夏休みを迎えるように指導してきました。子どもたちは自分自身で「成長した姿」をどう捉えるのでしょうか。「〇〇の勉強を一生懸命頑張った」「新しく知ったことやできるようになったことが増えた」「身長が伸びた」「苦手なものが食べられるようになった」「下級生の面倒をみた」などが挙げられますが、これらは全て「成長」です。子どもが成長した姿に、大人は気付かなかったり見過ごしてしまったりすることもあります。逆に、「できないこと」や「失敗したこと」などにはよく目が行き、「いつになったらできる（成長する）のかしら…」と思うこともあるのではないのでしょうか。子どもの認識と大人の成長の基準（期待）に差異があるかもしれません。また、子どもは急には変わりませんし、言えばすぐにできるようになるとも限りません。ただ、言えることは、成長しない子供はいないということです。成長した姿を見せるときは、子どもによって様々です。失敗を繰り返し、いつの間にかできるようになっていることもあります。「失敗は“成長”のもと」として、温かく見守りたいものです。

4月からこれまでに振り返ると、子供たちは普段の学習や行事、日々の学校生活を通して、多くの課題と向き合い、頑張る姿、努力する態度、たくさんの学びがあり、心身ともに成長する姿が見られました。その学校での様子は、「ひがしっ子通信」を通して、保護者や地域の皆様にお伝えしてきました。

4月、スタートの始業式や入学式。「これから頑張ります！」という思いが態度に表れていて、すばらしかったです。5月、運動会。競走や演技では一生懸命の中にも笑顔が見られ、「運動会を楽しもう」という思いが感じられ、ひがしっ子のよさである笑顔がたくさん見られました。絵をかく会（図工）や水泳学習（体育）、国語や算数、理科や社会科、外国語（活動）に音楽、道徳、総合的な学習の時間や生活科、掃除や給食の時間など、様々な場面で頑張る子どもたち。学校とご家庭とで見せる姿が違うという子どももいます。頑張らなかった子どもは一人もいません。子どもが頑張ることができたのも、ご家庭での励ましや見守りがあったからこそだと思います。ありがとうございました。



1年生のアサガオも支柱が足りなくぐんぐん伸びています。

一方、楽しみにしている夏休みではありますが、注意も必要です。長期休業中は、生活のリズムが乱れやすく、交通事故や水難事故、熱中症、インターネットやSNS、金銭をめぐるトラブルなどにも十分注意が必要です。学校でも指導を行っておりますが、ご家庭におかれましても、安全な過ごし方や情報機器（ギガタブやパソコン、スマホなど）の適切な利用について話し合っただけであれば幸いです。

夏休みに貴重な経験や体験をして、子どもたちが豊かな感性や主体性を育むとともに、心と体を休めて、新たな力を蓄え、夏休み明けからも元気な笑顔で登校してくれることを、教職員一同、心より楽しみにしております。